平成29年度　大阪府堺市保健医療協議会　部会　審議概要

資料４－１

|  |  |
| --- | --- |
| 会議の名称 | 大阪府堺市保健医療協議会　第２回　救急医療体制調整部会 |
| 開催日時等 | 日時：平成３０年２月２３日（金）午後２時～午後３時場所：堺市役所　本館６階　健康部会議室Ｂ |
| 議　　　題 | １．傷病者の搬送及び受入れの実施基準＜堺市圏域版＞の改正ついて２．救急搬送における現状と課題について３．ORIONデータ利活用　救急搬送指標について４．その他 |
| 会議の概要 | 議題１「傷病者の搬送及び受入れの実施基準＜堺市圏域版＞の改正ついて」　（まとめ）　　　○救急告示病院の更新に伴い、各病院のリストを変更することになり、近畿大学医学部堺病院の削除と新たに近畿中央胸部疾患センター（呼吸器内科）が加わることとなった。　　　○搬送等実施基準というのは、救急要請のあった患者さんを適切な病院に運ぶためのものであり、堺市でもこの基準に照らして搬送している。　　議題２「救急搬送における現状と課題について」　（報告）　　　○救急出場件数・搬送人員の推移について、過去１０年間の救急統計では、昨年は55,343件と過去最多を更新した。年齢別でみると６５歳以上が著しい増加傾向を示しており、６５歳未満は減少傾向にある。　　　○年間救急出場件数について、全国と堺市で人口１０万人あたりの件数を比較し、堺市が全国よりも多いことが顕著である。件数は全国と同様な推移で、６５歳以上の増加傾向が続いている。　　　○救急患者受入れ上位５病院の冬期（昨年１０月から、今年２月１８日まで）の応需状況を表しているが、いずれの病院も１月～２月にかけて応需率が下がっている。　（意見）　　　○冬期に応需状況が下がる原因の一つとしてインフルエンザの流行がある。肺炎、急性鼻咽頭炎、風邪等を含めて毎年１月にピークを迎える傾向にある。　　　○インフルエンザ等で救急搬送された患者さんについて、圧倒的に６５歳以上が多いのがわかる。これにより、入院率が高くなりベッド満床に繋がる。病院側も個室対応が必要となり、すぐに受入の限界がやってくる状況にある。　　　○データを病院間で相互に見るシステムを導入していない。受け入れの可否は、消防機関が情報センターを通じて把握することが可能である。○地域連携パスということを聞いたことがあるが、病院間で空きベッドを活用するようなシステムはないのか。　　　○地域連携パスは、急性期を終えた患者さんが、次の医療機関と連携していくためにあると理解していただけるとよい。 |